

「うちどく」通信～2019.4～〔筑南小学校 毎月7日はうちどくの日〕

毎月7日は筑南小うちどくの日。うちどくとは、家庭で読書を楽しみ、また、おうちの方とコミュニケーションを図りましょうという取り組みです。うちどくを12ヶ月忘れずに提出できたら、修了式で表彰するので、ぜひがんばって下さい。

※一年生は、5月7日から開始します。保護者の皆様、ご協力よろしく願いいたします。



2年 りゅうせい 『としょかんライオン』ミシェル・ヌードセン (きょうかしょ) Eヌ 聞いた人:お母さん

りゅうせい:ライオンがおてつだいをいっぱいしてよかったです。

お母さん:ライオンのやさしいきもちがマクビーさんやマリウェザーかんちょうのころをうごかして、もっといいとしょかんになったと思いました。こういうとしょかんがほんとうにあったら、まいにちいきますね。

2年 かえで 『おふろだいすき』松岡享子 (きょうかしょ) Eマ 聞いた人:お母さん

かえで:ペンギンやかめや、オットセイや、かばや、さいごにクジラが出てきてびっくりしました。ゆめみたいでした。

お母さん:まこちゃんが風呂に入っていたら、お湯の中や洗い場から次々といろんな動物たちが出てきて、とても楽しそうでした。一番びっくりしたのは、楓が本を読んでいる時に、本の上いきなりてんとう虫が出てきたことでした。

3年 はる 『がっこうだってどきどきしてる』アダム・レックス Eレ 聞いた人:お母さん

はる:ぼくは、学校がきれいな人がいると知りました。でも、ぼくは学校がすきでいたいです。

お母さん:絵がとてもかわいく、学校の様子も楽しめました。新入生の気持ち、こんな感じだったなあと、息子の2年前の春を思い出しました。

3年 てるき 『ぼくのニセモノをつくるには』ヨシタケシンスケ Eヨ 聞いた人:お姉さん

てるき:とてもおもしろい本でした。本当に、自分になたロボットがつくれたらいいのになと思いました。

お姉さん:自分に似たロボットがいてくれるのは助かることも多いと思うけど、「僕」という人間は1人しかいないので、自分らしさを大切に、弟の照希にも生きていってほしいと思いました。

4年 りょうご 『いのちのまつり』草場一寿 Eク 聞いた人:お母さん

りょうご:ぼくのせんぞがたくさんいるということがわかりました。せんぞの数が、よそうとはだいぶちがっていたのでびっくりしました。

お母さん:先祖のことについて興味があったのでこの本をえらんだのかなあと思いました。仏様にならんでいる写真を見て、「これはだれ?」と、よく聞いていました。いのちがずっと続いていってほしいと思いました。先祖のことを考えるよい本でした。

4年 そうま 『ウミウシ』中野理枝 48ナ 聞いた人:お母さん

そうま:いろいろな形や色のウミウシがいっぱいいびびっくりしました。どくがあるけれど、ほかの魚に食べられてしまうことがあるそうです。

お母さん:ウミウシって、こんな形なんだと初めて知りました。貝がらをぬいだ巻き貝がウミウシだということも初めて知りました。

【4/11 提出分】

提出数/人数 (欠席)

2年 14/17

5年 21/21 ☆GOOD☆

3年 21/23

6年 23/25

4年 15/20 (うち1人免除)

全校 94/106 (うち1人免除)
(1年生を除く)

5年 ゆい 『どんなかんじかなあ』

中山千夏 Eナ 聞いた人:お母さん

ゆい:人それぞれ障害があるので、助け合っていきたいし、やさしく接してあげたいです。

お母さん:目が見えない人、耳が聞こえない人がいるけれど、お互いの気持ちを少しでも理解できるように人によりそってほしいと思います。

5年 ひろ 『ブタはともだち』マーク・ティーン Eテ

聞いた人:お母さん

ひろ:ウェンデルが部屋をきたなくして、片付けようとしなかったからブタがすみついていてとってもきたないと思いました。

お母さん:遊びは楽しいけど、“遊んだらきちんと片付けをする”この習慣を身につけてほしいものです。

6年 ひな 『教室はまちがうところだ』蒔田 晋治 Eマ

聞いた人:お母さん

ひな:わたしもまちがうことをおそれずに発表していきたいなと思いました。

お母さん:「失敗は成功のもと」というので、間違えることにびくびくしないで、しっかり自分の気持ちを伝えたり、発表ができるようになってほしいし、友達が言える雰囲気、受け入れられる心を持ってほしいです。

6年 みゆ 『Two Trains』魚住直子

(きょうかしょ) 913ウ 聞いた人:お母さん

みゆ:これは友情の物語で、女の子の日常のゆれる心をとらえた本でした。これは、仲間はずれやいじめられたとき、どうすれば解決できるのか深く考えさせられる話でした。

お母さん:友達との友情を分かち合える本でした。友達とのことについて深く考えて欲しいと思いました。

6年 ゆうみ 『だじゃれ日本一周』長谷川義史 Eハ

聞いた人:お母さん

ゆうみ:47都道府県全てにだじゃれを作れるのはすごいと思いました。意味が分からないだじゃれでも、とりあえず楽しめる本だったのでおもしろかったです。

お母さん:私は地理が苦手です。なので、県名を覚えるのは必死でしたが、この本に早く出会えていれば、楽しく覚えられたらいいなと思います。